

農林水産大臣賞受賞

是こそ里なり
～住みよい是里むらを目指して～
これさと

受賞者 是里むら

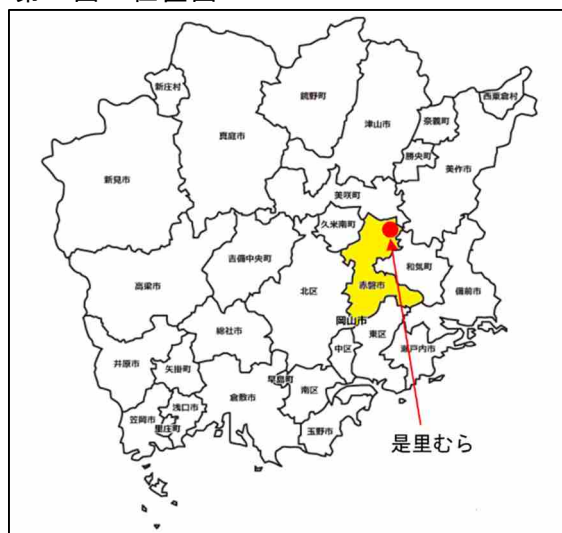
あかいわし
(岡山県赤磐市)

■ 地域の沿革と概要

赤磐市は岡山県の南東部に位置し、東部には岡山県3大河川の一つである吉井川が流れ、中央部から南部の平野においては市街地と田園地帯が広がり北部は、丘陵地となっており、豊かな自然環境と文化遺産に恵まれている。

赤磐市の総面積は 209.36 km²、人口は約 43,800 人である。白桃発祥の地でもあり古くから果樹栽培が盛んな地域で、中でも特に「もも」と「ぶどう」の栽培が盛んである。

第1図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

是里地区は、赤磐市の最北端で市の中心部から約 30 km離れた、標高 350mの吉井高原に隣接する山間地域であり、高齢化率は 60%となっている。

是里地区の主な農産物は、ぶどうと是里ごぼうである。ぶどう栽培については歴史も古く昭和 37 年には、農業構造改善事業のパイロット地域に指定され農地の整備を実施し、農家戸数についても昭和 50 年には 100 戸で栽培面積 49ha を最高に高齢化などの理由により平成 20 年度年には、6 ha まで減少した。

第1表 地区の概要

地区の規模	3自治会	
地区の性格	地縁団体	
農家率 (内訳)	農家率	16.6%
	総世帯数	433戸
専業別農家数 (内訳)	総農家数	72戸
	専業農家	28戸
	1種兼業農家	7戸
農用地の状況 (内訳)	2種兼業農家	37戸
	総土地面積	2,514ha
	耕地面積	71ha
	田	55ha
	畑	16ha
	耕地率	2.8%
農家一戸当たり耕地面積	1.0ha	

注：四捨五入のため、計と内訳が一致しない場合がある。

是里むらの活動により後継者の方の就農やU I J ターンによる新規就農

者の受け入れ等により現在では、農家戸数 28 戸、10ha 程度まで回復をした。

また、是里地区には、ヤマタノオロチ伝説においてスサノオノミコトがヤマタノオロチを成敗した剣を洗い流したとの言い伝えのある血洗いの滝や三女神をお祀りしている宗形神社も建立されており古くから信仰の深い地域である。

地区の西部に位置する吉井高原では森林公園が整備されており気候の良い時期には、市内外から多くの方が訪れ、森林浴などを楽しんでいる。



写真 1 血洗の滝

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

是里東・是里中・是里西地区の住民は他の山間地域と同様に少子高齢化が進行し、過疎化へ進んでいくことに危機感を抱いていた。そこで是里3地区で地縁団体である「是里むら」を平成6年に設立した。

是里むらでは住民の意見をも取り入れ話し合いを重ね、是里むらの目標として地域の活性化、歴史ある故郷の維持を掲げ、まず始めに定住人口の確保に向けて活動を始めた。

是里地区に定住人口を呼び込むには、地区内で生活に必要な収入を確保できることが必要である。このため、「是里地区ふるさと振興の会」を発足し、地域の特産品であるぶどう栽培で生計が維持できるようにぶどう畑の再整備を行い、新規就農者の確保するために支援を充実することとした。

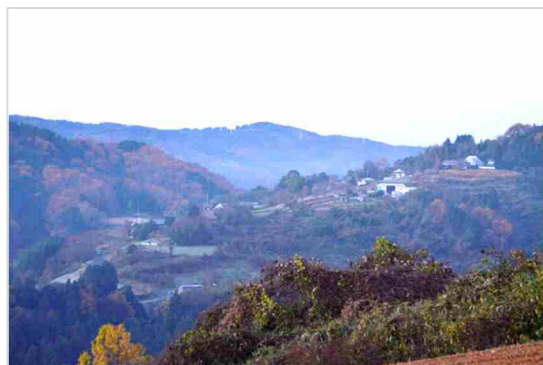


写真 2 是里地区

(2) むらづくりの推進体制

是里地区コミュニティ協議会が母体となって各種の事業ごとに協議会等を設立して事業実施を行っていたが、平成6年に地縁団体「是里むら」を組織し、是里東・是里中・是里西が一体となってむらづくりを推進するように組織変更を実施した。代表的な組織として平成22年に「是里地区ふるさと振興の会」を設立し、新規就農者の受け入れを開始した。

平成10年に「吉井町是里農村型リゾート推進会議」（現「赤磐市是里農村型リゾート推進協会」）を組織して「リゾートハウスこれさと」等の施設の利活用を行っている。

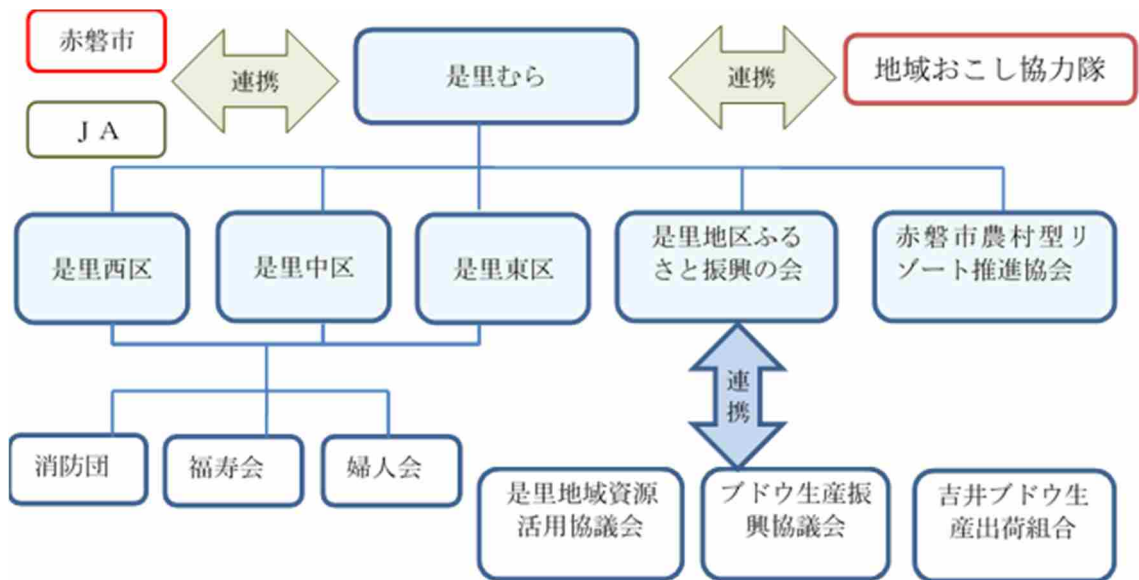
そのほかでは、福寿会（敬老会）や婦人会も一体となってむらづくりを推進している。

ぶどう生産農家で組織されている吉井ぶどう生産出荷組合では、研修会などを実施して技術の平準化などに努めるとともに新規就農者に対する技術指導も行っている。

また、ICTを活用した園地の環境をモニタリングできる機器を設置し、栽培管理を時系列にまとめる取り組みを平成28年から実施し、これまでベテラン農家の経験と感に頼った栽培技術を“見える化”することにより、新規就農者の早期技術習得や生産者全体のレベルアップに取り組んでいる。

その他の地域活動としては消防団や婦人消防隊なども組織され地区活動を積極的に行っている。

第2図 むらづくり推進体制図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

是里地区ふるさと振興の会と関係機関が一体となって是里地区に関心を持つ就農希望者及び農業体験希望者等への農地や住宅の確保支援、生産技術の指導などのサポートを行うなど、地域の担い手を確保しつつある。

また、是里産のぶどうを醸造した是里ワインを始めとする加工品や是里の特産品の販売を通じて地域の魅力を高めている。

是里地区では、毎年運動会をはじめとするイベントを開催するとともに地元産品を活用した食事を提供しており、地域出身者や各種イベントを通じて交流が始まった留学生も参加するなど大変賑わっている。

2. 農業生産面における特徴

(1) ワイン用ぶどう栽培から6次産業化

是里地域では、「ピオーネ」の生産拡大や消費者の嗜好の変化により、「キャンベル」の市場価格が低迷してきた。

また、農家の労働力も高齢化に伴い低下し、生食用としての栽培から、労力の比較的少ない加工用の栽培への移行を希望する声が出てきた。そこで、ぶどうの付加価値を高め、町の特産品とするために昭和60年から「キャンベル」「ベリーA」等を活用した国産ワインの生産に取り組み、是里地区内にある鳩岡小学校跡地に醸造所を整備し、本格的な手作りワインの醸造を開始した。また、毎年ワインの新酒が醸造できたことを周知するために「これさとワイン祭フェスト」を開催し多くのファンを得た。

平成7年の「ドイツの森」開園に合わせ、工場を移設新築しワインの生産を継続している。



写真3 ぶどうの収穫



写真4 これさとワイン祭フェスト

(2) 中山間直接支払

是里地区では第1期より中山間直接支払の事業を活用して約18haの農地の保全を行ってきている。また併せて平成27年から多面的機能支払交付金を活用して地域の農地保全活動のみでなく地域コミュニティの形成にも寄与している。

地域が一体となって活動を行うことにより地区内の農地の維持管理を継続し、耕作放棄地の拡大を食い止めることに貢献している。



写真5 用水路の保全作業

(3) 新規就農者の受け入れ

是里地区は、昭和 37 年第一次構造改善事業により、約 60ha のぶどう団地（キャンベル）を造成し、昭和 40 年代から良質なぶどうの生産が盛んにおこなわれている。しかし、生産農家の高齢化からしだいに生産量が減少し、耕作されなくなった樹園地が目立ち始めた。こうした状況を克服して地域の活性化を図るため、ぶどう生産組合、是里 3 区、赤磐市、JA 及び岡山県などの関係機関が一体となって組織する「是里地区ふるさと振興の会」を設立した。会の活動は、是里地区に関心を持っていただいている就農希望者及び農業体験希望者で、定住と就農を希望される方々を対象に、地域の特産品であるピオーネ等の栽培指導、農地や住宅の確保支援、生産技術の指導などのサポートを行っている。

こうした地元の熱意により、都市生活者や新規就農者を是里に受け入れて、地域の後継者として、また、ぶどう生産農家の担い手が育ち始めている。

平成 22 年に 1 名、平成 23 年に 1 名、平成 28 年に 2 名、平成 29 年 1 組 2 名、平成 30 年に 1 名、合計 7 名の受け入れを行い荒廃農地の再生を行い、果樹園を 6 ha から 10ha へ再整備した。

(4) 収穫ボランティア

農家のワイン用ぶどうの適期収穫作業の負担を軽減させるため、収穫作業ボランティアの募集を始めた。収穫体験を通して是里地区及び是里ワインを知ってもらおう機会となり、是里ぶどう、是里ワイン及び是里地区のファンになってくれることを期待している。また、収穫ボランティアには、IPU（環太平洋大学）の留学生や地域の瀬戸南高校の生徒も参加しており、留学生を含め若い世代



写真 6 地域の話し合い



写真 7 新規就農者



写真 8 収穫ボランティア

との交流を進めている。

(5) 是里むら収穫祭

是里むら収穫祭は平成 27 年度から是里むら・是里むら収穫祭実行委員会が中心となって開催している。特産品のぶどう、野菜や是里のぶどうを始め是里ワインの販売や地元産品を活用した食事の提供なども行い新しい村のイベントとして定着してきている。来訪客も回数を重ねるごとに増加してきており、農家の所得向上と地域の活性化に非常に貢献している。



写真 9 是里むら収穫祭

(6) ICTを活用したぶどう生産への取組

吉井ぶどう生産出荷組合では、若手組合員が中心となり平成 28 年度から赤磐市、JA及び東備普及センターと連携してICT技術を活用することでぶどうづくりに関する技術の平準化に取り組んでいる。地区内6か所の園地にフィールドサーバー（環境値計測器）を設置し年間を通しての気象データを収集、分析し作業適期の把握や年間作業の見通しを計画することに活用している。また、農家の確実な栽培技術の継承についてもスマートフォンを活用して栽培記録を管理することで技術継承を行っている。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 移住定住者の受け入れ

是里地区では、移住希望者が移住前にリゾートハウスこれさとに体験宿泊を行うことができる。

体験宿泊では、地域での農業体験や盆踊りなどの地域行事に参加することで“むら”ならではの慣習等に触れ移住者と地域住民との交流を図り、是里地区を理解したうえで移住を前向きに検討してもらうよう支援している。



写真 10 リゾートハウスこれさと

このような取り組みを行うことで、都市部からの移住者はすぐに地域に溶け込んで様々な地域活動に積極的に参加されている方を多く見受けられる。

近年では、テレワークを理由に移住されている方もいる。

(2) 移住者の活躍

移住者の中には念願であった古民家カフェをオープンし、是里地区の新鮮な食材を用いた料理、交流の場を提供や是里ならではの田舎暮らしの幸せと日々の思いをインターネットラジオ放送局で発信するなど都市農村交流に積極的に携わっている方がいる。

令和3年には外国人移住者がパン工房を整備中であり、新たな是里むらの名物と文化が入ってくることを期待されている。

(3) 女性・若者の活躍

是里むらの女性は、郷土料理の研究開発をしている。特に平成28年に美作大学栄養学科の協力を得てむらの女性と学生が是里ごぼうの特徴である独自の風味と食感を生かす料理20品目の「是里ごぼう料理開発レシピ集」を作成し、一般に公開し、地区の美味しい根菜類を使ったレシピの普及により是里ごぼう販売促進の一役を担った。



写真11 ごぼう料理レシピの開発

(4) 生活環境の整備

ア 環境の美化

集落毎に春と秋の年2回集落内道路の草刈りや農村公園、吉井高原など公共の場の草刈りを行っている。緑の募金の苗木の配布等を活用して約10年前から吉井高原を桜の名所にするために毎年約50本の桜などの植樹を行っている。また、老人会が中心となってクリーンキャンペーンとして是里地区内のごみ拾いを行うなど、年間を通じて地区の環境美化に努めている。



写真12 道路の清掃

イ 展望台の整備

是里むらには展望台がないにもかかわらずGoogleマップ上には「展望台」が表示されていた。観光客がネット情報に誘われて訪れるようになったため、住民有志が手作りで展望台を設置し地域の新たな観光施設として活用されている。



写真13 展望台からの眺望

さらに本年度は、雨天でも活用できるように屋根を増設中である。

(5) 是里地区運動会（IPU留学生との交流）・ソフトボール大会

是里地区の運動推進員が中心となって年1回地区の皆さんで運動会を開催し、体力維持と地域のコミュニケーションを深めている。地域の方々だけではなく、地域出身者の方も運動会に合わせて帰省され大変賑わう。近年では、是里地区と交流のあるIPU・環太平洋大学の留学生も参加して地域の方々と国際的な交流を図っている。

ソフトボール大会では、近隣の山方地区の方々と交流試合をおこない、古くからの友人たちとの交流と親睦の場となっている。



写真 14 是里地区運動会

(6) 宗形神社おまつり地元伝統芸能の継承（獅子舞）

崇神天皇の御代に勧請されたと伝承されている宗形神社の境内で400年以上前から獅子舞が伝承されており、昭和40年代から地域の子供たちに伝承するため週に1度程度練習を重ねている。練習の成果を宗形神社の秋大祭で奉納獅子舞と併せて披露している。



写真 15 獅子舞

(7) リゾートハウスこれさとの活用

「リゾートハウスこれさと」等を中心として、就農希望者や移住希望者の体験宿泊施設として活用したり、日帰りや短期宿泊を行ったりしている。併設されているワイン記念館では地域の方々が休憩をとれる喫茶があり、地域の方々の憩いの場となっている。

また、宿泊のみでなく、ぶどう収穫、ごぼう掘り、こんにゃく作り、炭焼きなどの是里むらならではの体験などが行なえるプログラムが準備されており、多くの利用客に利用されている。



写真 16 農作業体験

(8) 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊により、是里の魅力を県内外に積極的にPRをしている。隊員は、是里地区ではリゾートハウスこれさとを中心に活動をし、リゾートハウスこれさとの管理を手伝いながら、野菜ソムリエの知識を生かして地域の特産品のPRを市内で開催されている農業マルシェ等に出店を行っている。さらに首都圏・近畿圏等で行われる赤磐市の農産物などのPR活動に参加して地域魅力を積極的に行った。

また、是里地区の農家が加工していたごぼう茶をパッケージングし、販売を目指している。



写真 17 県外での販売



写真 18 左：製品の販売 右：ごぼう茶